

神戸文学賞・神戸女流文学賞発表

昭和五十一年六月、本誌は有為の新人に新しく道を開くとともに、西日本における文学活動のいっそうの発展のために微力を尽したいとの願いから「神戸文学賞および神戸女流文学賞」を創設いたしました。第四回作品募集は昨年八月に締切り、西日本全域から多数の応募がありました。昨年十一月十六日、神戸市内で最終選考を行い左記の二作品が第四回の受賞作と決定いたしましたのでここに発表いたします。授賞式は昭和五十五年一月十四日（月）午後六時より神戸風月堂ホールにて行います。

神戸文学賞受賞作品

「溶ける闇」

たかぎ としかつ
高木 敏克



昭和22年7月、神戸市生。関西大学文学部卒業。昭和五十年八月、同人誌「脈」を創刊し、詩、小説、評論を発表する。同誌は昨年十月で十号を数える。初期には、カフカの、現在ではボリス・ヴィアンの作風の影響が見られるが、独自のイメージの創出に、新たな世界を構築している。神戸市在住。
△受賞のことは▽
受賞は私には眩しすぎる。この光を反射するのではなく、私は自らよく発光しなければならぬ。光を受ければ、ガラスの破片だって輝くものだが、灰の中にはダイヤモンドが隠れていることもある。総ては光が消えてからだ。

神戸女流文学賞受賞作品

「影と棲む」

たぐち よしこ
田口 佳子



昭和9年3月、神戸市生。神戸松蔭女子学院中退。「季刊旅と湯と風」編集委員で、作品の殆んどは同誌に発表している。受賞作では、自らの「痛み」の作品化を試みたが、従来の女性の生き方に疑問を呈し、自立した女性を力強く描くことに意欲を見せている。兵庫県伊丹市在住。

△受賞のことは▽
書き続けた日々をふり返る時、恥ずかしくなる。恐ろしくなる。だが、やはり前を向いて書き続ける。書くことの意味を自分に問いかけることを忘れず、現実と非現実の間でゆれている心をもっと深くみつめたいと思う。

最終選考候補作

（最終選考には受賞作を含め、次の作品が残りました）

「闇の音」

吉本 惇見
△神戸市▽

「溶ける闇」

高木 敏克
△神戸市▽

「路面電車」

南禅 万作
△神戸市▽

「暗葉樹」

高野 彌生
△羽曳野市▽

「影と棲む」

田口 佳子
△伊丹市▽

「人形の眼」

新坂 善子
△東大阪市▽

「蒼い神楽」

中町 子菊
△高知市▽

選考委員

足立 巻一
△作家▽

小島 輝正
△神戸大学教授▽

森川 達也
△文芸評論家▽

島 京子
△作家▽

主催 月刊神戸っ子

● 第四回神戸文学賞／神戸女流文学賞選考座談会

視覚的な高木敏克「溶ける闇」 筆力ある田口佳子「影と棲む」

■ 選考委員

足立巻一〈作家〉

小島輝正〈神戸大学教授〉

森川達也〈文芸評論家〉

島京子〈作家〉

編集部 本誌創刊十五周年を記念

して設定された「神戸文学賞・神戸女流文学賞」も、第四回目を迎えました。今回も西日本各地から

「神戸文学賞」に十五篇、「神戸女流文学賞」に三十篇の応募があり、既に五名の選考委員によって

基礎選考が終わり、次の七篇が最終選考に残りました。「神戸文学賞」には、吉本惺見「闇の音」、高木敏克「溶ける闇」、南禅万作「路面電車」の三篇、「神戸女流文学賞」には高野弥生「暗葉樹」、田口

佳子「影と棲む」、新坂善子「人形の眼」、中町子菊「蒼い神楽」の四篇です。それでは「神戸文学賞」より最終審査に入ります。

★イメージの世界「溶ける闇」

B 応募者は最年少が十六才、最

年長が七十才ですね。

A 「神戸文学賞・神戸女流文学賞」も西日本各地の文学愛好者にかなり浸透してきたようですね。

C 今年は昨年の受賞者、蒼さんのようにこれは／＼というのがなかったようですね。

A 昨年同様、消去法でいきましようか。私は先ず「溶ける闇」を落としますね。高木さんは幾つぐらいでしょうか。学生か三十才前後という若い人でしょうか。落とす理由は、この人に、小説というものはどういふものか、をもう一度考え直してもらいたいですね。

この人は詩を書いている人でしょうか。最近の若い人には、こういう傾向がよくてますね。

B 人間関係が成立していない、

ということですか。

A 昨年の女流の大原さんの作品と比較すると、小説の世界がないですね。あれはひとつの意味を問おうとしていたと思うんです。

B 筆力はあると思いますが。

A イメージだけでこれだけ書けるんですから(笑)だが、小説の表現の方向と違うんじゃないかな。

B ボキャブラリーは非常に豊富ですよ。

C イメージという点においてもきつと、本物でしょう。

B 作品のタッチとしてはイメージの膨ませ方とかに、アラゴンの「パリの田舎者」、これも小説とはいいにくいんですが、これと、発想が実に似てますね。「溶ける闇」も視覚的ですが、独創的なイメージ



島 京子さん



森川 達也氏



小島 輝正氏



足立 巻一氏

じっくりが本物とすれば、大したものですよ。

C 作者個人のイメージから全て出たものであれば素質がありますね。いわゆる小説でなく、エッセイストとか散文詩人的ですが。

D 他の候補作品にはない文学の水脈に触れるのを感じますが。

B 他の作品には忘れられている光るものが文章にあります。

C 読みかけて面白くなった人とつまらなくなった人とに分れましたね。ちょっと保留にして次へ。

B 「闇の音」は実に几帳面に丁寧にかっちり書かれていますね。

A 真面目な人でしようね。

B 書かれている内容は、いわゆるキリスト物ですね。

A ユダに材をとった作品は芥川以来昔からありますね。作家はユダが一番面白いのでしょうね。吉本が主題に書いているのは「彼はイエスを裏切ったのではない。主題の核心は彼が何故イエスを試みねばならなかったかという、その闇の深さである」ということですね。

D でもそこところもうひとつ書ききれなかったですね。

A 私はこれは大衆文学の発想、および文体ではないかと思えます。ユダはいろんな作家が既に書いてきているし、この人固有のユダ像を創りだしてもらわないと純

文学にはならないんじゃないですか。大衆文学と純文学の分け方には問題があると思います。

D 作者が自分の作品に酔っているようなところがありますね。

A 「試みること」の闇の深さが追求されていませんね。

B 試みたことは記されていますがこの作者が固有に追求していった思想がないですね。

もし吉本がクリスチャンならこのユダの見方は浅いですね。構成は非常に細かく緻密ですが。

A テーマとしては平凡で追求不足ということですよ。

B ただユダが昔、商人で親がない、という設定はオリジナルでしょうが……。例えば、キリストが女に対して色情が欠落していた点を突っ込むとか、それと愛との関係を突っ込むとかね、もっとその辺が欲しいな。

A あまりに扱われすぎたテーマだけに、かなりしっかりした作品でないとも成功しないですね。

C 自分との関わりをもう少し表現して、作者の肉声が聞こえないときれいごとすぎますね。

B これは落としましょう。

A 「路面電車」は私は高く評価したんですがね。三人の中では南禅が短篇としての技術が一番よくあります。ベテランでしょう。

B 「新日本文学」に何度か発表

していませんね。「柳絮」に載せている「五輪の山河」を読みましたが、面白かったですよ。

C これこそ大衆小説的だね。

A 百枚ほどの中にうまく収めて主人公と奥さんとの夫婦像、人間像を浮かび上がらせてくれてますね。その点は確かに巧いが、最終の十、十一章あたりは走ってますよ。

D 開夜の部分は不要ですよ。

A テーマが割れてしまうね。

B ちょっと筆力に任せて、書き過ぎる傾向にあるんですね。

C 私は筋立てが古いと思うね。

同年輩だから余計感じますね。

D 過ぎた時代の風俗はわかりやすいよ。路面電車の運転手になることが、そんなに夢だったのかなと思ったり、私は面白かったです。

A 昭和の初めの点描はそつなく書かれてましたね。

B これは他人から聞いたことを書いたと思います。自分のことを書くと、かなり集約的に書く人で、力はある人ですからね。ただ、この作品で賞を、というのには抵抗がありますね。ストーリーの中のエピソードは、ビビッドに書かれています。

A 一人の主人公の人間像を通して表現しようとしている何かは、ありますね。それが手あかに汚れたもののだといえそうですが……

B 読者をそらさず、最後まで読ませますよ。

C うーん。高木と南禅のいずれをとるか……。小説家としては疑問が残るけど、今回は高木君に賭けてみましょうか。新鮮で面白いでしょう。

B 何となく今風なんだね。

D 現地には本当に行ったのか、どうか興味ありますね。

A 可能性に期待しましょう。

★ペランの味をみせる二作品

A 女性の方では、まず新坂善子さんの「人形の眼」を落とします

B ちょっと雑ですね。いい所もあるんだけどね。

D 言葉が雑駁すぎますね。

C センスとひらめきはあるけどもかく雑ということですね。

B 話の前と後ろが分れてますね

D もっと文章を推敲してほしいです。書ける人だから、あわてずに落ち着いて書いて欲しい。

B 素質はあるんです。

A 書くのに余裕のない人が多くなったというか、特に女性はワァーッと追いたてられるように書いている。主題を絞って、集中的に深めてほしいです。

B 「蒼い神楽」は中町子菊さんの作品ですが、どうでしょう。女性が書いた作品とは思えないですね。戦争物だし。

C しかしリアリティーがないで

すなあ。

A 題材として、戦争前の捕虜と自分の田舎のお神楽と、あまり結びついてないけど組み合わせとして面白いですね。お神楽のことをこんな風に詳しく書いたのは初めて読みましたよ。

B 確かに面白いですね。女の人のなので、もちろん自分で体験したんじゃないだろうし、聞いて書いたんでしようが、かなり場面、場面をそこそこ書いてますね。

C 実話でしょうか。オーストラリアの捕虜の生き残りの人に聞いてるんでしょうね。作品としてはなく、記録として良いですよ。

B 小説風にせず事実を報告するという形でそのまま書いたらいいですね。内地の妻や恋人は戦争物にはどうしても出てくるわけけどチラッとでいいんですよ。

C タイトルがどうもよくないね

A お神楽の所が異色ですね。作品の出来としてはもう一つだが。

B それとこの人も含めて、応募者は年令もちゃんと明記すべきですね。審査の時に考慮されるべき事柄ですから。二十代の人のなか、五十代の人のなか、それで審査員としても見方が違ってくるころもある。

A 高野弥生さんの「暗葉樹」と田口佳子さんの「影と棲む」の二篇が残りましたね。二人ともしっ

かりした技術があり、甲乙つけがたいですね。

B 高野さんはよく書いていますね。四十年代後半位じゃないですか。

D 田口さんはブルーメール賞選考の時に名前が出ましたね。

A あの時も面白い作品だと思っ

D 「暗葉樹」のように、セックスを通じて男と女の関わりを書くのは仲々難しいですね。感覚から人間をとらえようとするわけですが、そうすると心の動きが網の目から落ちるんです。いくら突飛なことを書いてもいいんですが、最終的にはやっぱり人間がひとり書けてないといけません。その点高野さんの作品は事件がどぎついんですね。作品全体にそう関係もないのに次々と事件が出てきて、結局かみ合わせる手が下手なんです

A 男と女のことを書いていますにもかかわらず、女性だけのモノローグみたいになっている。

C 折角の意欲と筆力があって、テーマも上手く見つけているのに惜しいですね。

A 全くの自分の世界での想像で書いているんでしょうね。テーマは単純で明晰ですが。

C 明晰すぎて図式的だね。

D 説得力が足りないようです。

B 強姦の場面もつくりものの城

を出していませんね、書きすぎている。抑ええるコツをわきまえてるといいんですが。

D 書きすぎると香りが消える。

C 強引に図式的に作りあげてますね。題名からも伺えますよ。

B 昔のことも、今のこともボヤカして、しかし本当はそうなんだという風に我々をゾツとさせるように書いてくれると迫力もでるんだが、これだけ書かれると、もうた

くさんだと、笑いたくなりますね。

A 「影と棲む」はどうですか。

C 筆力のある上手い人ですね。

B 男が読むと薄気味悪いな(笑)

D 女が読んででもそうですよ。

A 男も女も読んで、薄気味悪いとなると、さきの高野さんと反対でかなり成功したことになるですね。女性の心の底にゆれ動く暗いもの、は感じさせますね。

B 心理的な一種の近親相姦であるわけですが、親父のを中心

に考えてみるとイメーじなり存在感が甚だ気薄ですね。娘の立場からは親父は描かれているんです

が、親父自身は一体どうなっているのかなあという気になりますね

A 主人公の心のゆれ動きにリアリティがあるのかどうかはわかりませんが、親父に対する相姦の想

いがあつたが、年を経つてうとましくなり、かつて別れた男性に又

傾こうとしているわけですね。

D 田口の作品は、時々読むんですが切実感がいつも足りない。それでも大変うまいですね。

B テーマに促してうまく書いてますね。母親像にしても、女の子から見ると母親像は我々男性からはよく理解できませんから、実際の

会話だけでなく、心の会話まで突っ込んで書いている。この点、男

にとつてはこわさを感じますね。

A 結末も心のゆれ動きからは必然性があり鮮やかな気がした。

D この人の作品の中でも、これは良い方ですね。

B 極めて現代的なものをこれだけ書きこなしているわけですから

ね。ただ、親父の人間的魅力がよくわからないね。母親の憎たらしさはよくよく書けているけれど(笑)

D 私は女流文学賞はテーマ主義でいくと、「蒼い神楽」が良いんじゃないかと思いました。

A しかし、あれは史実に基いて書かれただけのものだと思うが。

B そうだと思う。残すとすれば高野と田口だが、両者を比べると

技術的には本当に差がないが、高野の方はやや書きすぎですね。ス

トリーとしては面白いが。

A 田口さんの「影と棲む」に決定しましょう。

D 佳作ということで機会があれば「暗葉樹」も掲載したらいいと思

いますね。(榮弥にて)

1980

ストリーム・ライン

Christian Dior

LUNETTES DE SOLEIL



'80クリスチャン ディオール サンングラス

フロントからテンプルへ流れる輝きを伴ったカラー。時に鮮かに、淡く、表情をかえるストリーム（小川）のよう。ディオールのストリーム・ラインで四季それぞれにさわやかな演出が楽しめます。ぜひ一度ご覧ください。

 神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表

三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

元町店は毎水曜日がお休みです

三宮店は第2、3水曜日がお休みです

ニユース漫画入神戸新聞ノ笑点ノVを
必死のパツチで描き続けて七、〇〇〇回（二〇年）
入海軍めしたき物語Vが好評の

たかはしもう笑品集

内容 「最新カラマンガ」（9頁）

「笑点20年」（36頁） 「似顔絵一〇〇人」（54頁）

「ニユースマンガ家の一日」（4頁）

二、五〇〇円
〔送料二〇〇円〕

お男込みは「たかはしもう出版会」（月刊神戸っ子編集部内）

送金方法ノ太陽神戸銀行三宮センタービル支店普通預金一五二七〇四「たかはしもう出版会」
または月刊神戸っ子あて現金送金してください。

経済ポケット ジャーナル

★関西初のアラブ展が さんちか広場で

アラブ諸国の風土、文化を、パネルや民族衣裳、民芸品などで展示して、神戸市民に紹介すると同時にポ



オープニングであいさつをする佐野神戸市助役

トピア'81への同諸国からの出展勧誘の意図も含めて、昨年十二月四日から、さんちか広場で「アラブ展」へ主催／アラブ展開催実行委員会（兵庫県、神戸市、神戸商工会議所、神戸貿易協会、ジェトロ神戸支部、アラブ連盟で構成）が開催された。同展には、アラブ諸国十五カ国が参加して児童画や



民芸品など約五百点を展覧したが、アラブ諸国と関西との結びつきは薄く、関西には公館もなく、関西初の試みだった。

オープンの四日には、アラブ首長国連邦のモカッラブ大使や、シリア・アラブ共和国のアターシ大使らが出席し、ポトピア'81への出展交渉に「民間外交」としての役割も果たした展示会となった。

★関西貿易が 創立三十周年

貿易および冷蔵倉庫、製氷業の関西貿易（株）神戸市



竹田剛男社長

兵庫区、竹田剛男社長が創業三十周年を迎えた。同社は、昭和二十四年二月、農産物の海外輸出を主な営業目的として創立し、以来業界の

リーダーシップをとっているが、この三十周年の記念事業の一環として冷蔵倉庫の増設と資本金の増資を実施した。

増設完成し昨年十一月一日に稼動を始めた冷蔵倉庫は、既設の木造平屋建ての畜肉用冷蔵庫の老朽化に伴い、敷地の立体的活用と近代化を図るため、総工費約三億円を投じて新鋭冷蔵倉庫に建て替えたもので、約六百万平方メートルの敷地面積に、鉄骨造りの四階建て、収容能力はF級（一部C級）約三千ト、うち一階の約七百トは畜肉用約四百トおよびC、F級兼用できる約三百ト、二～四階の約二千三百トは全てF級室、また二階以上は保税上屋となっている。また、増資は、昨年七月二日付で一億円資本となっている。

★KOBE オフィスレディ★



柏木 裕子さん (23)

<川崎製鉄株式会社総務部勤務>

常に笑顔で接します、という川鉄本社の受付を担当する5人の女性のひとり。始めたばかりのテニスに夢中のこのごろで、休日は芦屋や古川のコートに通う。ふだんは洋裁や料理を、というから、花嫁修業中というところか。理想の男性は「思いやりがあってやさしくて、スポーツマンタイプがいい」という彼女、目下募集中のよう。射手座。明石在住。

<大阪社会事業短期大学卒>

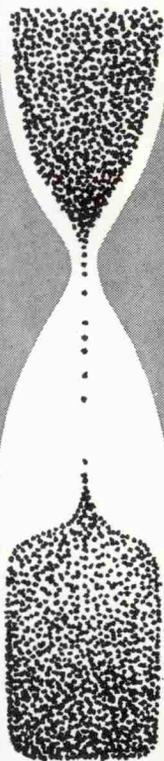
★神戸J.C理事長に川西章二氏
神戸青年会議所では、本年度理事長に川西章二氏が就任した。任期一年。主な役員は次の通り。副理事長／中右雄雄、石川吉延、塚本哲夫、則岡弘士、和田善弘、専務理事／月岡清市、常任理事／石丸鉄太郎、磯崎敏二郎、香取安宏、廣垣良泰、三木重昭、尤昭福

★神戸輸入促進フォーラム
運営委員会設立
神戸輸入促進フォーラム八田嶋克己理事長では、昨年九月二十五日、懸案だった運営委員会を設立。メンバーは次の通り。委員長／田嶋克己八田嶋樹社長、副委員長／小島博夫ハイレイト物産副社長、委員／村上敦八神戸大教授、吉田寛八神戸商大教授、松永宣明八神戸大助手、安室憲一八神戸商大助教授、小泉康夫八神戸市福集長、徳山正午八岡マキ社長、安田幹夫八岡KIC社長、北川勲八同和通商副社長、富永和三夫富永貿易副社長、村上寿朗八三栄貿易副社長、安部文雄八関千景社長、中島英詞八関角中商會社長、長谷川達明八神戸観光写真社長、若井智真雄八元・日刊スポーツ事業部長・事務局担当、古沢峰子八神戸日豪協会事務局長・事務局担当

★キャンペーン

国際文化都市神戸を

考える



(26)

神戸の未来をつくる 博覧会に向って翔ぶ

(ポートピア'81)

渡辺 祥夫

〈神戸ポートアイランド博覧会協会事務局長兼総務部長〉

安岡 利美

△神戸市経済局長

未来都市、コンベンションシティをめざして

——いよいよ八〇年代の幕あけであり、ポートピア'81を一年後に迎えます。その新年にあたって博覧会協会、神戸市、出展企業の大阪ガス、ポートピアみどり会、ダイエーの代表の方々にお集まりいただきました。まず渡辺さんから……。

渡辺 神戸で博覧会をするというのは実は三十一年ぶりなのです。三十一年前に開かれた博覧会というのは、昭和二十五年に開かれた、通称、神戸博覧会、正式には日本貿易産業博覧会です。その前に開かれたのは、昭和五年の神戸海港博覧会です。これは昭和四年に今上天皇の即位を記念して神戸港沖で御戴冠記念観艦式というのが行なわれまして、それを記念して行なわれた博覧会です。それから戦争その他がありまして昭和二十五年の神

岡本 光弘

△ポートピアみどり会事務局長

遠藤 浩

△大阪ガス株式会社取締役

菱井 良一

△大阪ダイエー商品統轄本部販売促進部理事

戸博覧会ということになります。

この神戸博覧会が実は、今のお金に換算して三百五十億から四百億の赤字を出しているのです。第一会場が今の王子動物園、第二会場が湊川公園と当時の勸業館、今の兵庫区役所です。やはり神戸市と兵庫県が主催でやっております。ところがたまたま同じ昭和二十五年の三月十五日から六月十五日まで、今の西宮球場で、朝日新聞社主催でアメリカ博をやっております、当時は終戦直後のアメリカに非常に憧れた時代で、関西の方がみんなアメリカ博に行つたんですね。その上、三宮から阪急電車に乗って、西灘で降りれば王子動物園の神戸博に行けるのだけれど、阪急電車の中は「アメリカ博」のポスターばかりで、下車駅「西宮北口」となっているものですから、神戸博に行くつもりの方がみんなアメリカ博に行ってしまったということもあったのです。その結果アメ

渡辺 祥夫さん



安岡 利美さん



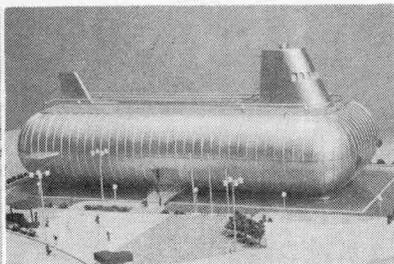
岡本 光弘さん



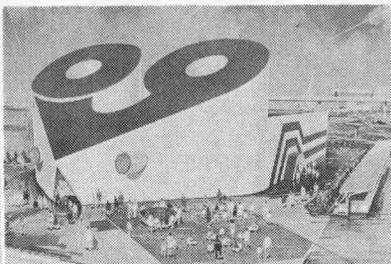
遠藤 浩さん



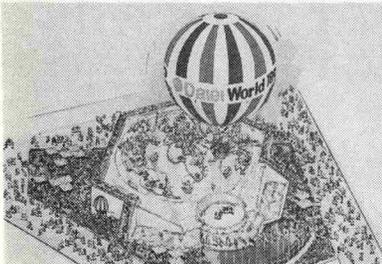
菱井 良一さん



ポートピアみどり館



大阪ガス館



ダイエー館 (第1案)

リカ博は二百万人、神戸博は百二十万人ということ、神戸博は莫大な赤字を出してしまったのです。そのショックのためにそれからのち、市役所の中では、博覧会はタブー的存在だったのです。

そして今、三十一年ぶりに開かれようとしているのがポートピア'81なのです。三十一年前の神戸博がアメリカ博のために赤字が出たからというわけではありませんが一九八一年という年には日本国内では大きな催しはないようです。したがって全国の旅行者などがポートピア'81に非常に注目しております。たとえば日本交通公社などは、これまでは沖縄とか北海道などの遠隔の地にお客さんを引張っていかうとしていた。しかしこれからは作戦を変えて大都市にお客さん呼び戻すことにしよう。

その手始めとして一九八一年はポートピア'81の開かれる神戸にお客さんを集めようということなのです。そのほかの旅行者もその方向にすすんでおりまして、ポートピア'81が次第に全日本的スケールをもち始めているという事は確実に言えると思いますね。

安岡 神戸市にとりましてこの博覧会の意義というのはこの博覧会を期して市の公共関連施設がその時期に一挙に完成するということですね。現実にはポートアイランドにゆきますと、日本中の建設のバイタリテイの象徴のような形でゆく度に様相が変わっておりまして驚きを新たにしています。新交通システムをはじめとして、ホテルと会場と展示場がワンセットになった会議都市、コンベンション・シティが着々とつくられています。このコンベンション・シティというのはこれからの神戸にとって大きな方向づけになり、国際都市神戸の中核になるのではないかと考えています。人が多勢集まって情報交換のできる都市づくりこそ八〇年代、あるいは二十一世紀へむけての都市政策の基本的方向です。ポートピア'81は神戸市の将来を決定する博覧会であると考えています。

ファンタジー、海底探検、世界の国々……

——全国から多くのお客さまがこられるということで出展企業の方々も張り切って構想を練っておられると思いますが、まず大阪ガスの構想からお話しいただければ……

遠藤 神戸という町は明るくてスマーで、エキゾチックで、日本全国の中で故郷を愛する率が一番高いということを聞いています。そういうすばらしい町がさらに生まれ変わってゆく博覧会に出展できるということは非常に光栄だと思っています。大阪ガスの出展の基本方針は、できるだけお客さんに楽しんでいただくということです。パビリオンにも「大阪ガスパビリオン、不思議な世界」というタイトルをつけまして、パビリオン自体が私どものペットマークである、アリス・イン・ワンダーランドの案内役のうさぎの形をしています。その中でファンタジックな楽しさを味わっていたらいいということですから。現在、いろいろな構想を練っておりますが、たとえば「ハーフミラーを使って照明を変えることによって自分の姿が写ったり消えたり、むこうがみえたり、カーブしたりという鏡の迷路。また錯覚を利用して大きな人が小さく見えたり、小さい人が大きく見えたりするコーナー。また一見全然わけのわからない絵が円椎形の鏡に写すとナポレオンの顔になったり……不思議だな、面白いなという遊びや現象を大いに楽しんでもらいます。」

さらに近々姫路に大きなガス基地が完成いたしました。いずれ神戸のみなさんにも天然ガスを使っていただくことになりそうですので、この天然ガスを使って不思議なショーをさせていただきます。たとえば、液中燃焼といましてガスは水中で大きく燃えますが、これも見ていただくと面白い図柄ですし、また天然ガスはマイナス百数十度という極超低温で液化してあるものですから、たとえば花などをその液につけるとカチンカチンになって、それをつまみ出して落とすと木っ葉みじんに割れてしまいます。また、その極超低温を利用して、パビリオンの中で雪を降らしてみようかということも考えておりますし、またポトピアのテーマが海でございますのでやはり

ガスの冷熱を利用して海水の真水化ということも実演してみようかと考えています。

ファンタジックなショーのあとは観客のみなさんが参加してつくる映画をみていただくことと企画しています。たとえばある中年の男性がビルにオフィスを借りて仕事をしている。たまたまその隣の部屋に美しいファッショナブルな女性が部屋を借りている。その女性がシャワーを浴びているとドアがノックされたような気がしてバスローブをまとって外に出た。たん風が吹いてドアがパタパタと閉まる。中からロククされて裸に近い姿で閉め出されて困り果てて隣の中年の男性の部屋に助けを求めて部屋に入ったところに男性の奥さんが訪ねてくる。すると素っ裸に近い美女が部屋にいる……というところで絵が止まる。——さあお立ち合い、どうする？奥さんが怒って旦那の顔をひっかけてひと騒動起すか、それとも誤解をといて丸く納まるか……。観客席の各いすにはボタンがありまして、どちらにするか観客のみなさんにスイッチを押していただきます。その結果「ひっかけ！」というご希望のお客さんが多ければ、ひっかけということと画面が再び進行します。さらにひっかけて外へ逃げ出した旦那を奥さんが追いかけてゆく。ある交差点まできて赤信号を無視してつっ走る、そこへパトカーが追いかけてくる……。とそこでまた画面が止まる。さあパトカーに追いつめられて捕って謝るか、それとも交通事故が起きるか？そこでまた観客の希望によって、交通事故を起せ」ということになる。ガチャーンと当たって大怪我をするところから再びストーリーが始まる。このようにして四、五回観客のみなさんにストーリーを選んでいただいて映画にしてゆくのです。これはモントリオールのチェコ館でもやっておりますが、ポトピアでもぜひやりたいと思っています。ストーリーは大人用、子供用といくつか用意するか、大人も子供も楽しんでいただけるものにするか考えております。

いずれにしても楽しんでいただきながら、都市ガスの

ことについても認識を深めていただきたいのです。

岡本 私にとつては神戸は大学の四年間、神戸支店次長の二年間を含めて神戸に縁があり、このたび三和グループとしてポトピア⁸¹の仕事ができるのをうれしく思っています。三和グループとしてははもとも関西に経営地盤を持ったグループでございますので、総力をあげて取り組んでいきます。久しく関西経済界の地盤沈下ということがいわれておりますが、このポトピア⁸¹が関西経済上昇の起爆剤になればと考えて、三和グループの総力をあげて出展するわけです。

三和グループの館の名称は、「ポトピアみどり館」でそのテーマは「海底へのいざない」としております。館の形も潜水艇の形で、人類にとつてもう一つの宇宙といわれる海底を、映像をはじめ、いろいろな装置を駆使して海のもつ無限の可能性を、誰にでもわかり易い形で紹介したいというのが基本的な構想です。

潜水艇は長さ五〇・五メートル、幅二〇メートル、高さ十メートルの銀白色に輝くもので、その上に八メートルの指令塔がつきますので、かなり高い建物となります。「あの潜水艇のところ」と、デートの名所になるであろうと期待しています。

内部は映像ゾーンと展示ゾーンにわかれています。映像ゾーンは前面に三面スクリーン、水槽等を置きまして巨大潜水艇に乗って海底探検を擬似体験していただくという事です。今そのドキュメンタリーフィルムを作成中で、たとえば海底火山の爆発があれば、新幹線の空気バネを利用した座席が前後左右に動くといったようないろいろなアイデアを検討中です。

展示スペースでは、アメリカで実際に活躍しています潜水艇を持ってきたり、今、石油に代わるエネルギー資源といわれる海底のマンガン塊を展示します。そのほか実物パネル、模型を使用して、二十一世紀にむけて未来への夢をみなさんにお目につけようというわけです。

菱井 昭和三十三年に神戸・三宮にオープンしたダイエ

ー店は当社のチェーン化の第一号店であつて、いわば神戸はダイエーにとつて第二の故郷ともいえる地です。以後神戸のみなさまに愛されて育ってきたダイエーとしてポトピア⁸¹を機会に、二十一世紀の生活はどうあるべきかを考えていきたいと考えています。これからの生活は衣食住のすべての面にわたり世界的な広がり豊かさを持つものであり、その中で人々の要求は多様化、個性化し、より質の高い生活を求めます。そのような考えから、「ダイエー百八日間世界一周」と仮題をつけまして、会期がちょうど百八日間であることにちなみ、「八日間世界一周」の映画のように楽しい夢を実現することを企画しました。傾斜した屋根に地球を表現するなど、かなりの具体案が出され、新聞などにも報道されましたが具体的な点については諸般の事情からかなりの変更もする予定で、現在再度企画を練りあげているところです。しかし「生活提案企業」のダイエーとして、また第二の故郷神戸の博覧会を成功させようという点での姿勢は変わることはありませんので、次の案が発表されるのを「乞御期待」というところが、ダイエーの出展の現状です。

ビデオアート、ハイオヴィス、そして意外性の神戸も

——神戸館はいかがでしょうか。

安岡 やはり中心は、映像と劇とを結合したトライビジョンでしょうね。映像にたとえば、風景とか人物が映る。それが展開するとその映像の中の人物が舞台の上に出てきて演技をする、そして追いかけて逃げると今度は画像の中に入って小さくなってゆくといったものです。シナリオは、ポトピア⁸¹に住む若い商社員と結婚した外国人女性が次第に神戸にたけこんでいくという、ストーリーが一つ提示されていますが、まだ決定には至っておりません。

もう一つは神戸のルーツをたどってみようという企画です。平清盛にまで遡らなくても、少なくとも百年前の

ルーツはさぐってみたい。それからポートアイランドがどうしてつくられたか、山を削って、コンペヤで運び、ケーソンを沈め……という過程を示す展示もぜひ必要だと思ふのです。いずれも具体的にどうするかということ
は検討中という段階です。

もう一つ考えておりますことは、神戸のイメージとして「洗練された街」ということはよく言われるのですがそれと反対の、神戸の意外性の部分をバックグラウンドとしてとり入れられないかということも考えています。たとえば古い映画の「第三の男」に出てきた下水道施設。神戸の下水道についてはほとんどの方が御存知ないであろうし、また意外に粗末な市長室などというのもおもしろいと思ふのです。過去は展示で、現在はトライビジョンでという構想ですが、神戸の未来ということになると非常にむずかしい。二〇〇一年では近すぎるし、さらにその先の神戸ということになるとSFの世界に入ってしまう。現在、考慮中というところで。

渡辺 テーマ館はすでに基本構想はでき上がり、いかに具現化するかとという段階です。大きく分けて展示、映像、彫刻の広場の三つに分けられます。展示では人類と海とのかわり、人間がいかに海を征服していったかということ
を格調があつてしかも芸術性の高いものでいかに表現するかということがポイントです。映像の面ではまずビデオアート。これは現在、筑波大学の山口先生にお願い
しています。これによって「新しい海の文化都市」のイメージをいかにつくり出しているかということ。もう一つはハイオヴィス劇場です。これは二十六インチテレビを六十四個、三百インチテレビを二台使用して観客
との新しいコミュニケーションをつくり、世界の未来を語ろうという試みですが、日本で初めての試みでもあり、技術
的にかなりむずかしい面もあり、現在電気メーカーを中心とした技術陣を中心に研究中であり、「乞御期待」とい
うところです。彫刻では「新しい海の文化都市」を象徴する「動く彫刻」などはどうだろうかということ

ですが、これも検討中です。テーマ館はどうしてもまじめ
になります。まわりに楽しい館が多いものですから素
通りされないように、動的展示を中心にいかに楽しいも
のにするかと知恵をしばっております。

明るく、スマートで親切な神戸を見せたい

遠藤 モントリオール博の経験ですが、「メイ・アイ・ヘ
ルプ・ユール」という言葉をしまいにはうるさいと感じる
ほどに聞きました。ポルトピア'81でも日本の各地からま
た外国からたくさんのお客さんが見えになります。ぜ
ひ神戸っ子の意気を見せて、明るく、スマートで、エキ
ゾチックで、しかも親切ないい町だなという印象をお客
さんが得て帰られるように努力したいものです。施設面
ではゆつくりと休息できるスペースがほしいものです。

岡本 二十一世紀にむけて夢のある博覧会にしたいもの
です。あまり規則、規則でしぼるとお祭りでなくなつて
しまいます。警備、保安の問題もあると思いますが……。
菱井 期間が長いのですから、みなさんと力を合わせて
文句なく楽しい博覧会のためにダイエーグループ一同
全力をつくしたいと思ひます。

安岡 私はこの博覧会は素晴らしいものになると確信し
ています。これをこれからの神戸にいろいろな意味で波
及させていきたいと考えています。観光面でも北野町、
酒倉がクローズアップされていますが、このポートアイ
ランドも大阪湾を借景とした神戸の大観光地になりま
す。都市観光の新しいジャンルを切りひらけるのではな
いかと考えます。産業の分野でも新しいヒントが随所に
転っている。これからの時代の科学技術、技術情報が博
覧会後にも広がってゆくことを期待します。

渡辺 テーマ館とともに博覧会協会の重要な任務は会場
内の一般的な運営です。その点につきましてはご出展の
企業のみならず皆様の方が、万博、沖縄海洋博を通じて経
験も豊富でございますので、いろいろとご教示を賜りな
がらすめていきたいと考えております。

田崎真珠(株)

取締役社長 田崎 俊作
神戸市灘台区旅塚通 6-3-10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル(株)

取締役社長 川上 勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー(株)

取締役社長 稲岡 必三
神戸市生田区三宮町1丁目17-4
センタープラザ東館 8F
TEL (078) 392-2101

(株)ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 332-3155

モロゾフ(株)

取締役社長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

